

中学生における広島県市区町村に対する地域イメージ

－「広島かるた」の作成と分析－

2021

番匠谷 省吾

広島大学附属中・高等学校
「中等教育研究紀要」第68号別刷

中学生における広島県市区町村に対する地域イメージ －「広島かるた」の作成と分析－

番匠谷 省 吾

本研究は、2019 年度、20 年度に中学校社会（地理分野）の授業で作成した「広島かるた」に書かれている言葉をテキスト分析することで、中学生が広島県市区町村に対してどのようなイメージを有しているかについて分析を行った。その結果、以下の点が明らかとなった。①出現回数の地理的分布では県南部に集中している。②県北部は自然景観に関するイメージを有している。③分野では、「第一次産業・食文化」「観光」「スポーツ」に関するものが多かった。

1. はじめに

地理を学ぶ上で、「地域」に目を向け、どのような場所であるかを意識することは非常に重要である。平成 29 年学習指導要領中学校社会¹⁾では、「地理的な考え方」の基本として、地理的事象がなぜそこでそのようにみられるのか、また、なぜそのように分布したり移り変わったりするのか、地理的事象やその空間的な配置、秩序などを成り立たせている背景や要因を、地域という枠組みの中で、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して追究し、とらえることとしている。本研究で扱った「郷土かるた」を通じた学習は、地理的事象の空間的な配置という面が強い教材であると考えられる。

このような地域を題材とした郷土かるたでは、「上毛かるた」が有名である。原口・山口(2010)²⁾では郷土かるたは、土地とつながり、人とつながり、自分とつながるツールである。とし、教育的効果や意義として、楽しみながら郷土を認識できる点、地域をよく知り、地域への愛着や関心に発展する点を指摘している。原口(2015)³⁾は、大学の授業の中で郷土かるたづくりに取り組んでおり、かるた作成までの過程についてどのような授業を行ったかを詳細に記述しており、本研究を進めるにあたりその手順を参考とした。

次に、生徒が持つ地域認識の先行研究では、梅田(2019)⁴⁾において、大学生が自県に対してどのような地域認識を有しているのか、「お国自慢」の調査を通じて明らかにした研究がみられる。調査は千葉大学の授業内で行き、いくつかの項目について学生が千葉県をどのように認識しているかを分析し、東

京大都市圏ならではの住みやすさや、自然環境の豊かさ、産業、行楽スポットといった4つの要素から地域認識をまとめている。広島県も千葉県と同様に、大都市圏、豊かな自然、産業、観光地を有していることから、様々な視点から生徒の地域イメージを読み取れるのではないかと考えている。

以上より、本研究の目的として、自身が所属する学校が位置する県に対してどのような地域イメージを有しているかを、郷土かるた「広島かるた」の作成を通して明らかにすることとした。

「広島かるた」の作成については後述するが、2年間にかけてのべ9,889枚の読み札を生徒が作成した。これらの分析として、テキストマイニングソフトである「KH-Coder」を用いた。テキストマイニングとは、文章から意味のある情報や特徴を見つけ出す技術であり、定量的なテキスト情報を数値化することができる。地理学の分野においてもテキストマイニングを用いた研究は行われており、和田(2021)⁵⁾では徳島県阿南市の「野球のまち推進事業」がもたらす社会経済効果を、和田(2021)⁶⁾では過疎地域における高校運動部の位置づけについて、それぞれアンケート調査の自由記述を分析することで明らかにしている。小山ほか(2020)⁷⁾では、大分県立特別支援学校における教職員の防災・減災意識についてアンケート調査の自由記述欄より分析している。「広島かるた」は、いわば広島県に関連する様々な事柄に対する自由記述ともいえ、約10,000枚の中で出現回数の多い語句の分析や、その語句と関連の深い語句などを明らかにすることができ、その結果が広島県や各市区町村に対する地域イメージではないかと考えている。

2. 「広島かるた」の作成

生徒の学習活動として、以下の手順でおこなった。

2019年度、2020年度の2年間において、筆者が担当した中学2年社会（地理）の家庭学習課題として作成を行った。2019年度は冬休み課題として、2020年度は1月の月間課題として扱った。2019年度は3クラス121名、2020年度は3クラス133名であった。かるたの読み札として「あ～わ」までの全て文字について作成し、その中から1つ選び、最もよいものについて絵札を作成した。作成した読み札の数は、2019年度は4,401枚、2020年度は5,488枚であり、2年間で合計9,889枚であった。2年とも生徒がエクセルに入力を行い、そのファイルの提出も求めた。その後、筆者が1つのファイルにまとめ、得られた9,889枚の読み札を、テキストマイニングソフト「KH-Coder」を用いて分析を行った^{8) 9)}。

当初、札の選定と実施後の感想までを計画していたが、2019年度はコロナウイルス蔓延にともなう臨時休校により、実施することが出来なかった。そのため、2年分の絵札について2020年度に生徒による選定を行った。また、出現回数上位150語を提示し、そこから何が読み取れるか。という感想を兼ねた自由記述を生徒に課すこととした。

3. 「KH-Coder」を用いた分析

(1) 分析方法

2年間計9,889枚の読み札について、「KH-Coder」を用いて語句の出現回数の分析を行った。表1は、出現回数上位150位である。なお、対象とした品詞は、名詞、サ変名詞、形容詞、形容動詞、固有名詞、地名、人名、タグとし、複合語として登場回数の多かったものや、「広島」「マツダ」「熊野」「大和」など、組織名、地名、人名などに分かれてカウントされるものについては、タグ機能を用いて分析を行った。

これらの語句の前後にどのような語句が多く含まれているかを確認する「コロケーション統計」を用いて、左右5語以内に出現する語を分析した。

(2) 分野ごとの分析

表2は、出現回数上位150位について、①第一次産業・食文化、②第二次産業、③特定の施設、④イベント・スポーツ、⑤交通・商業、⑥人名、について登場回数上位5位をまとめたものである。これらの語句について、地域的な分布という視点で分析したい。なお、「広島」「広島県」という語については分析対象外とした。

①第一次産業・食文化では、レモン、カキ、お好み焼き、もみじ饅頭、ラーメンが上位5語となった。なお、第6位のソースが49回の登場であることから、生徒の中では上位5位までのものに対して強いイメージを持っていることが分かる。地域的にみると、尾道市周辺（レモン、ラーメン）と広島市周辺（カキ、お好み焼き、もみじ饅頭）に二分されていることが分かる。同様の傾向は、⑤交通・商業においてもみられた。

②第二次産業では、重工業（マツダ、造船、自動車）と、伝統工業（熊野筆、けん玉）に分けることができる。③特定の施設では、世界遺産である「原爆ドーム」「厳島神社」が多く、広島市内の庭園である「縮景園」や呉市の「大和ミュージアム」が上位であった。このように、②・③の項目では県南西部の産業や場所への集中がみられ、県東部や県北部の登場は少なかった。

④イベント・スポーツでは、「カープ」「サンフレッチェ」というプロスポーツチームが上位に来ている。また、「フラワーフェスティバル」「ドリミネーション」といった広島市内のイベントも上位であり、登場語句は広島市内に集中している。

⑥人名では、歴史上の人物と現役芸能人に分けられる。56回登場した「毛利元就」の前後に使用されている語句を見ると、「安芸（8回）」「広島（6回）」「中国（4回）」、「池田勇人」は「所得倍増（17回）」「計画（5回）」である。現役芸能人では「アンガールズ」は「田中（6回）」「ツッコミ（5回）」、「綾瀬はるか」は「女優（8回）」「演技・広島（5回）」となっている。このように、人名では特定の市町村という範囲ではなく、「広島」という範囲で、郷土の人物をイメージしていることが読み取れる。

(3) 形容詞・形容動詞

表3は、登場回数の多かった形容詞・形容動詞のうち6語を対象とし、その語句とともに登場回数の多かった語句をまとめたものである。最も登場回数の多かった「平和」では、「原爆ドーム（101回）」や「象徴（44回）」「願う（41回）、祈る（34回）」と、原爆関連の語が上位となっており、生徒の平和に対する想いやこれまでの学習経験や日常的な報道が影響していると考えられる。

「美味しい」に関連する上位語句をみると、料理・加工されたものとして「尾道ラーメン」「（もみじ）饅頭」「お好み焼き」、素材として「レモン」「カキ」が上位となっており、これらを、広島を代表する食文化、農水産物として認識していることが分かる。

調査時期に左右されたものが「強い」に関連する

語句である。かるたを作成した2019年は、広島東洋カープが3連覇をした翌年である。長期低迷が続いたチームであるが、2013年に3位になった時点で生徒たちは小学低学年であった。中学2年生のかれらにとっては小学校高学年の期間に3連覇をはたしており、「強いカープ」のイメージを持っていたこ

とが分かる。また、かるた作成を冬休み～1月に行ったため、年末に行われる全国高校駅伝での「世羅高校」の活躍も印象が強いようである。過去の成績に加え、2020年には男女とも優勝したこと、卒業生が箱根駅伝やニューイヤー駅伝で活躍していることで、目や耳にする機会が多かったからであろう。

表1 出現回数上位150位までの語句

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
広島	1352	公園	58	自然	32
広島県	493	スタジアム	56	人気	32
カープ	326	毛利元就	56	伝統	32
尾道	278	世羅	53	広い	31
宮島	273	楽しい	52	似島	31
平和	250	瀬戸内	52	折り鶴タワー	31
レモン	245	世界遺産	50	遺産	30
カキ	243	ソース	49	温泉	30
お好み焼き	236	八朔	49	出身	30
もみじ饅頭	214	名所	49	立派	30
呉	198	クワイ	48	ドリミネーション	29
美味しい	197	ルンルン	46	池田勇人	29
綺麗	182	象徴	46	伝統工芸	29
有名	175	造船	46	日本三景	29
日本一	169	名物	46	穏やか	28
ラーメン	164	三段峡	45	街並み	28
原爆ドーム	161	真っ赤	45	祭り	28
マツダ	154	都市	45	料理	28
熊野筆	144	三原	43	ご飯	27
瀬戸内海	140	強い	42	ポニョ	27
路面電車	139	竹原	42	黄金山	27
厳島神社	124	因島	41	最高	27
しまなみ海道	115	大和ミュージアム	41	産地	27
大久野島	115	分葱	41	アストラムライン	26
三次	109	優勝	41	アンガールズ	26
生産	107	養殖	41	タコ	26
多い	107	景色	40	海苔	26
福山	106	フラワーフェスティバル	39	酸っぱい	26
廿日市	103	安佐動物公園	39	庄原	26
ウサギ	102	温井ダム	39	瀬戸内レモン	26
日本	98	絶景	39	大好き	26
猫	94	千光寺	39	庭園	26
鞆の浦	92	戦艦	39	平和公園	26
けん玉	91	鯉城	38	ファン	25
歴史	91	赤い	37	愛媛	25
厳島	87	夜景	37	綾瀬はるか	25
三角州	86	応援	36	花火大会	25
西条	85	笑顔	36	県民	25
鳥居	85	サイクリング	35	資料館	25
発祥	85	ミカン	35	神社	25
太田川	79	本通り	35	舞台	25
安芸	77	江田島	34	ゆめタウン	24
世界	75	帝釈峡	34	ワイン	24
名産	75	弥山	34	観光	24
紅葉	73	スキー	33	湯来温泉	24
サンフレッチェ	67	空港	33	毛利	24
縮景園	67	自動車	33	願い	23
美しい	64	映画	32	四国	23
大和	60	宮島細工	32	市内	23
熊野	58	高い	32	清盛	23

表2 分野別出現回数上位語句

	1位		2位		3位		4位		5位	
①第一次産業・食文化	レモン	245	カキ	243	お好み焼き	236	もみじ饅頭	214	ラーメン	164
②第二次産業	マツダ	154	熊野筆	144	けん玉	91	造船	46	自動車	33
③特定の施設	原爆ドーム	161	厳島神社	124	縮景園	67	三段峡	45	大和ミュージアム	41
④イベント・スポーツ	カープ	326	サンフレッチェ	67	スタジアム	56	フラワーフェスティバル	39	ドリミネーション	29
⑤交通・商業	路面電車	139	しまなみ海道	115	本通り	35	空港	33	アストラムライン	26
⑥人名	毛利元就	56	池田勇人	29	アンガールズ	26	綾瀬はるか	25	毛利	24

注：「広島・広島県」を除く。

表3 形容詞・形容動詞と関連の深い語句

平和	原爆ドーム	101	象徴	44	願う	41	祈る	34	世界	24
美味しい	ラーメン	31	尾道	27	饅頭	27	お好み焼き	25	レモン	19
有名	尾道	21	ラーメン	13	マツダ	9	福山	9	西条・廿日市	8
美しい	宮島	7	紅葉	6	瀬戸内海	6	三段峡	5	宮島細工・歴史・瀬の浦	4
楽しい	公園	4	マリーナホップ	3	宮島水族館	3				
強い	カープ	13	高校	12	世羅	11	駅伝	6	サンフレッチェ	5

注：「広島・広島県」を除く。出現回数3以上ものを記載した。

表4 動詞と関連の深い語句

食べる	お好み焼き	17	ラーメン	12	饅頭	10	尾道	7	宮島・土手鍋	4
作る	千田貞暁	8	呉	7	大和	6	お好み焼き	4	熊野筆	4
行く	本通り	6	宮島	5	遠足	4	カープ・応援	3	安佐動物公園・厳島・帝釈峡	3
見る	カープ	4	紅葉	3	三段峡	3	夜景	3		
走る	路面電車	39	山縣亮太	4	市内	4	電車	4	マツダ	3

注：「広島・広島県」を除く。出現回数3以上ものを記載した。

(4) 動詞

表4は、これまでの品詞に動詞を加えて分析を行い、同様にまとめたものである。「作る」では、「千田貞暁」が最も多かった。千田貞暁は、明治初期の県知事であり、在任中に宇品港や宇品干拓を行った人物である。広島市内の小学校社会科副読本「わたしたちの広島3・4年」¹⁰⁾の年表に取り上げられていることから、小学校での地域学習や調べ学習で触れた経験が影響していると思われる。「呉」「大和」は戦艦大和を作った呉市という意味合いで使用されており、伝統工芸品である「熊野筆」を含め、動詞「作る」は歴史的な言葉と関係が深いことが読み取れる。

「走る」では、路面電車の登場回数が多い。市民の足として、日々の通学手段として路面電車が重要な存在であることが分かる。また、2019、20年は、東京オリンピックの前年に当たる年であり、広島県出身である「山縣亮太」選手がオリンピックに出場できるか注目を集めていた。このことから、生徒にとって直近のスポーツは強い印象を受けていることが分かる。

(5) 自己組織化マップ

KH-Coderのうち、自己組織化マップ機能を用いて作成したものが図1である。自己組織化マップは抽出語同士の距離を表したものである。分析対象のうち、総抽出語数は59,689、分析対象語数26,848語、異なり語数6,928、分析対象異なり語数4,912語であった。

図1に示されたプロットをみると、例えばクラスターIの「広島・カープ」のように同一プロットに位置しているものがみられる。これらは両語の距離が近いという意味である。これをみると、「広島県」と「瀬戸内海」の距離が近いことから、生徒は県南部への意識が高いことが分かる。また、広島県の「名産」品として「カキ」を、「呉」市は戦艦「大和」や「大和」ミュージアム、「尾道」といえば「ラーメン」と地域のイメージを有していることが分かる。

いくつかのクラスターの特徴をみると、クラスターIでは、「瀬戸内海」「多い」「大久野島」に加え、島嶼部での生産量が多い「カキ」や「レモン」の語より、瀬戸内海に浮かぶ島々についてのグループであることが読み取れる。

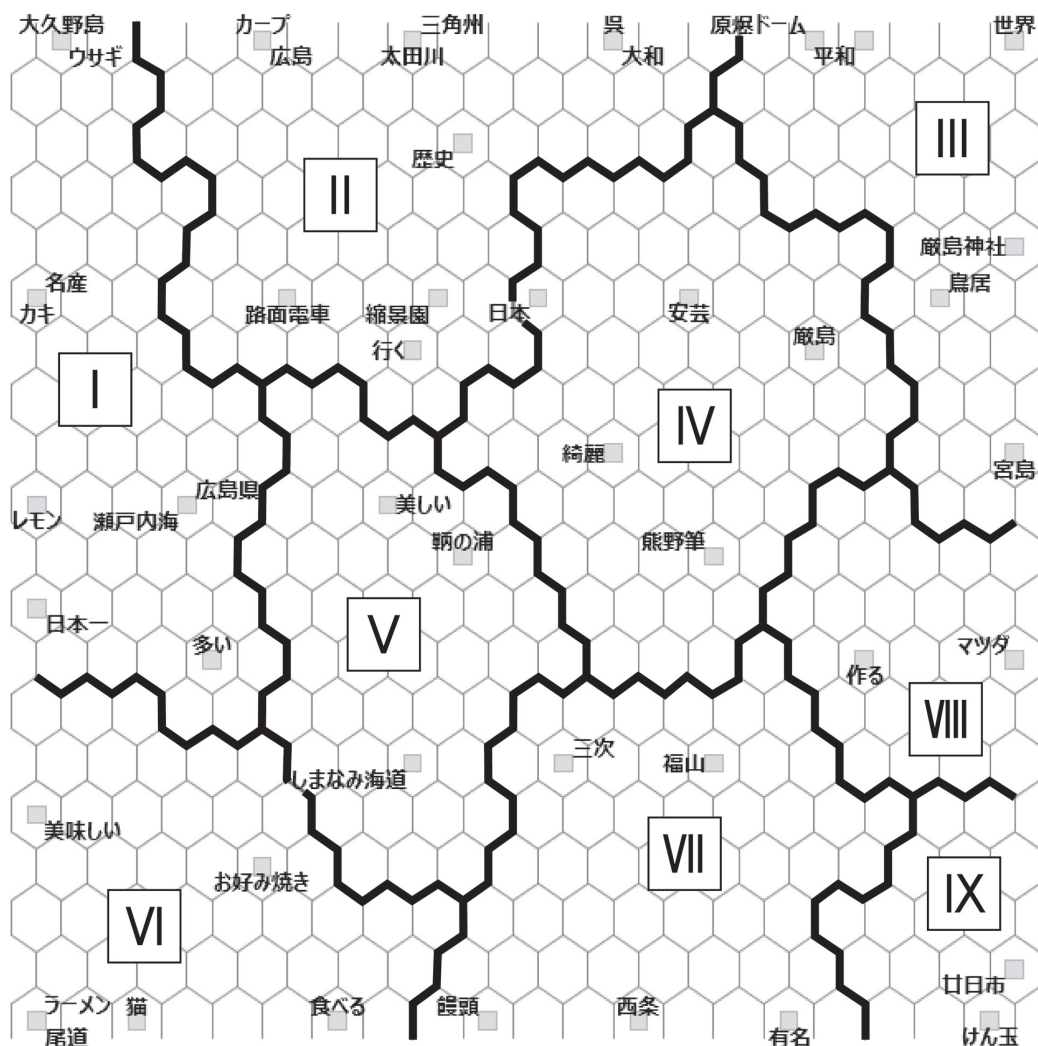


図1 自己組織化マップ

注：分析対象品詞は「名詞」「形容動詞」「固有名詞」「人名」「地名」「動詞」「形容詞」「タグ」とし、最少出現回数は60に設定した。また、一辺のノード数は20とし、クラスター数は9とした。また、クラスター間の数字は筆者が加筆した。

クラスターⅡでは、広島市・呉市についての語句が並んでいる。特に、「三角州」「呉・大和」「縮景園」「路面電車」とあることから、広島市から呉市にかけての沿岸地域一帯という範囲で語句が出現していることが分かる。

クラスターⅢは、2つの世界遺産（原爆ドーム、平和記念公園、宮島、厳島神社）についての語句から形成されている。

クラスターⅤは、「鞆の浦」「しまなみ海道」という県西部の沿岸部・島嶼部について、「美しい」という形容詞と同じクラスターとなっている。とくに、「美しい」と「鞆の浦」の距離が近くなっており、広島県を代表する美しい景観として認識していることが読み取れる。

クラスターⅥは、「食べる」「お好み焼き」「尾道・ラーメン」の語句より、食文化のグループであることが読み取れる。生徒にとっては、お好み焼きと尾道ラーメンが広島県を代表する食であると認識していることが分かる。

クラスターⅣ・Ⅷ・Ⅸは3クラスターに分類されているが、「作る」を中心にみると、「熊野筆」「マツダ」「けん玉」の距離が比較的近いことが読み取れる。それぞれ伝統工芸品と自動車産業であり、これらを広島県の第二次産業の特徴と捉えていることが分かる。

4. 市区町村別の類型化

次に、読み札の中に地名が明記されたものや、特定の場所を示してしているものから、その地域に対してどのような語句が出現し、どのようなイメージを有しているかを分析したい。作成した9,889枚のうち、地名が明記されているものや、明らかに特定の場所を示しているものを取り出すと、4,388枚であった。これらの内容を広島県内30市区町村別に、9の内容で分類し集計したものが、表5、図2である。9類型は「自然」「第一次産業・食文化」「第二次産業」「商業・観光」「歴史」「交通」「レクリエーション・公共施設」「イベント」「その他」とした。複数のカテゴリーに分類可能なものについては、内容を踏まえた上で筆者が判断しカテゴライズを行った。例えば、呉市では、「戦艦大和を造り」的な内容であれば「歴史」、呉は造船の街的な内容であれば「第二次産業」とした。それぞれの市区町村の総数のうち、30%以上を占めている場合を、その類型に特化した市町村とし、特定の類型に属していない市区町村を「バランス型」とした。また、総数が20以下であった広島市安芸区、安芸郡海田町、坂町、大竹市、大崎上島町、神石高原町については対象としなかった。

「自然」の占める割合が高かったのは、安芸太田町と、庄原市であった。安芸太田町では、広島県の最高峰である恐羅漢山や三段峡が、庄原市では比婆山や帝釈峡などの山や峡谷の記述が多くみられた。また、安芸太田町では、レクリエーション・公共施設として温井ダムの記述も多く、生徒からみると、自然に関するイメージが強い地域であることが読み取れる。

「第一次産業・食文化」では、尾道市、東広島市、三次市、江田島市、世羅町での比率が高かった。記述をみると、ラーメン・レモン・八朔（尾道市）、日本酒（東広島市）、ピオーネ（三次市）、カキ（江田島市）といったご当地物のイメージが強いことが特徴である。また、世羅町では、特定の産品ではなく「農場」といった語句が多くみられることから、生徒にとって農村的な景観イメージを持っていることが分かる。

「第二次産業」では、熊野町、府中市での比率が高く、先述した第一次産業と同様に、熊野筆（熊野町）、府中家具（府中市）という地場産業のイメージが強いことが分かる。特に熊野町では全ての札が筆関係であった。

「商業・観光」は廿日市市、広島市中区、西区、佐伯区での比率が高かった。これは、2つの世界遺産である、原爆ドーム、平和記念公園、宮島・厳島神社といった観光地と、本通り商店街などの商業機

能が数多く登場したためである。広島市西区と佐伯区では、商業機能が多く、アルパーク、LECT、THE アウトレットといった郊外型の大型ショッピングセンターの影響が大きい。

「歴史」では、福山市、竹原市、安芸高田市での比率が高かった。安芸高田市では毛利氏関係が、竹原市は大久野島と歴史的な街並みが、福山市では鞆の浦関係の札が多くみられた。中でも、大久野島とウサギに関連する札が多く、生徒にとって大久野島の歴史は印象が強いことが分かった。

「交通」の比率に偏りがみられた市区町村は存在しなかったが、広島空港の位置する三原市や、しまなみ海道の位置する尾道市では数多く登場している。

「レクリエーション・公共施設」では、広島市東区、安佐南区、安佐北区での比率が高い。東区では森林公園、安佐南区ではエディオンスタジアムとヌマジ交通ミュージアム、安佐北区では安佐動物公園が多くみられた。これらの施設は、遠足や休日に家族で訪れた経験が多くあるためである。また、広島市南区での数値も高く、これはマツダスタジアムによるものである。

「イベント」では三原市と北広島町での比率が高くなっている。北広島町では「壬生の花田植」が多くみられた。これは、先述した小学校副教材で複数ページにわたり取り扱われていることが関係していると思われる。三原市では「やっさ祭り」が多くみられた。

最後に、特定の分野への偏りがみられない市区町村についても分析したい。広島市南区では、先述したレクリエーション機能以外に、自然では「似島」「比治山」「黄金山」が多くみられた。歴史や交通では、宇品港や干拓に関する記述が多くみられた。呉市は複数の分野に分散している。歴史が最も多く、戦艦大和ならびに海軍関係と、平清盛関係に二分された。第二次産業では造船業が、第一次産業・食文化では、カキや柑橘系についての記述が多くみられた。

5. 生徒による札の選定と感想

(1) 札の選定

2020年度中学2年の授業において、2年分の札について選定を行った。クラスごとに4人～5人班を10班作り、1・6班は「あ行」、2・7班は「か行・な行」という形で、枚数が均等になるように配分し、すべての絵札からもっともよいものを1つ選ぶ形式で選定を行った。その結果、各行につき、6つの班が選定することとなった。また、札の内容とともに、絵の完成度についても選定の際に考慮するように伝えた。

表5 市区町村別の類型化（出現数）

類型	市区町名	自然	第一次・食文化	第二次	商業・観光	歴史	交通	レク・公共	イベント	その他	合計
自然	安芸太田町	72	2	0	1	1	0	47	0	3	125
	庄原市	45	24	0	22	21	0	3	1	4	120
第一次産業・食文化	尾道市	46	182	3	73	39	130	0	2	61	536
	東広島市	9	94	6	6	10	0	15	12	2	154
	三次市	18	66	4	24	5	1	0	10	0	128
	江田島市	14	21	0	1	11	2	4	0	8	61
	世羅町	2	31	0	9	1	0	14	0	3	60
第二次産業	安芸郡熊野町	0	0	190	0	0	0	0	0	0	190
	府中市	0	0	18	3	0	0	0	0	3	24
商業・観光	廿日市市	99	28	160	368	57	12	16	20	21	781
	広島市中区	2	3	1	469	139	13	46	9	3	685
	広島市佐伯区	9	6	0	57	1	0	10	0	2	85
	広島市西区	9	4	1	21	6	9	7	0	4	61
歴史	福山市	12	35	50	28	103	2	0	2	8	240
	竹原市	3	12	0	21	127	0	0	0	5	168
	安芸高田市	0	3	1	2	15	1	6	0	1	29
レクリエーション・公共施設	広島市安佐北区	2	0	0	0	0	2	43	0	2	49
	広島市東区	4	0	0	6	13	1	17	3	1	45
	広島市安佐南区	1	1	0	1	6	1	27	0	0	37
イベント	三原市	2	26	1	9	3	30	0	15	0	86
	北広島町	8	6	0	3	2	0	9	19	0	47
バランス	呉市	47	54	59	82	92	14	6	4	25	383
	広島市南区	48	25	0	17	33	35	76	13	22	269
	安芸郡府中町	4	0	6	6	1	1	4	0	3	15
合計		456	623	500	1,229	685	254	350	110	181	4,388

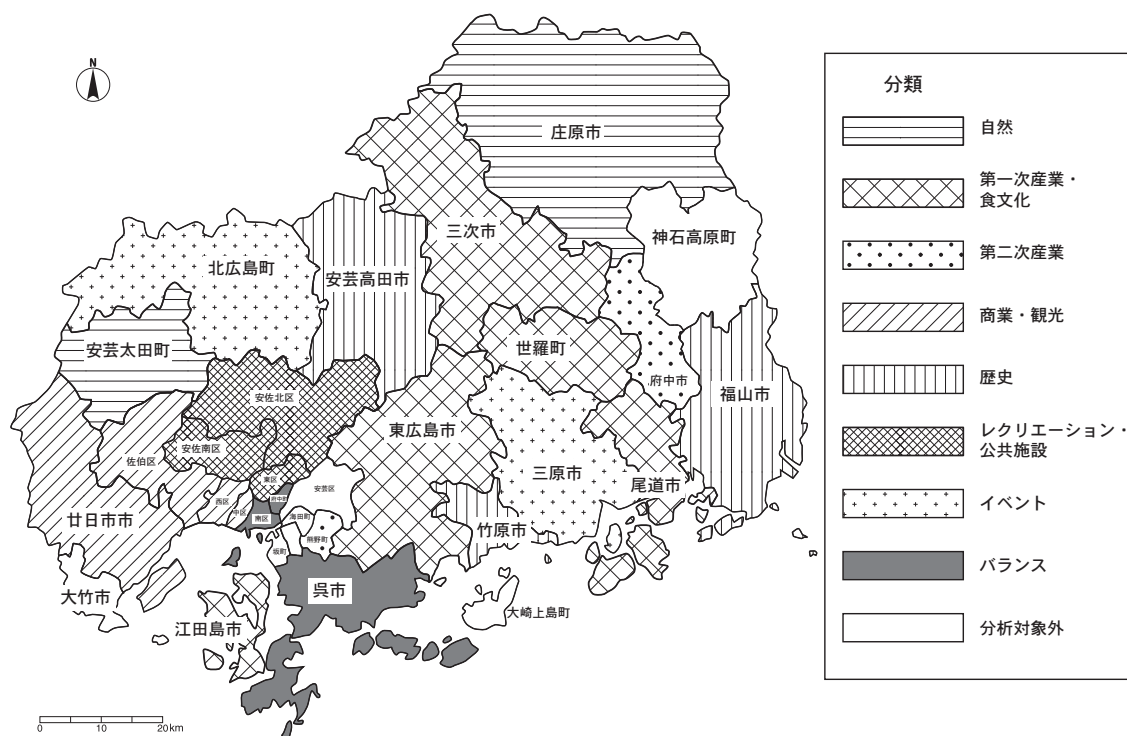


図2 市区町村別の類型化

このうち、6班すべてが一致したものが、次の9枚である。(原文ママ)

き：きたれポニョの町 鞆の浦

こ：紅葉見事な 佛通寺

せ：千羽の鶴と 原爆ドーム

ひ：ピオーネ生産 三次の町

ほ：ポニョの聖地 福山市

む：むかし懐かし 鞆の浦の街並み

め：Make up に 熊野筆

り：旅行の友 タナカカのみりか

ろ：路面電車 線路はつづくよどこまでも

地域別でみると、福山市3、三原市1、三次市1と、県西部、北部で過半数を占めた。

次に、6班中5班が選んだものが次の6枚である。

あ：あいしてるぜ 我らの附属中学校

え：猿猴橋の 河童伝説

す：スヌーピー似の 広島県

て：手をあわせ 平和を祈る広島市

ね：猫たくさん 愛猫家の聖地尾道

わ：忘れもしないあの悲劇 原爆ドーム

最後に、6班中4班が選んだものが次の12枚である。

う：海の風景を 縮め聚んだ縮景園

く：くろい真珠 三次ピオーネ

そ：それいけ 我らの松山

に：日本酒といえば 西条じゃろ

は：花田植 壬生の早乙女 飾り牛

ふ：船づくり 海に夢見る呉男子

へ：平和の証 原爆ドーム

ま：ままも喜ぶ 熊野筆

み：水の芸術 三段峡

や：野生のうさぎか 大久野島

ら：ライオンもいる！ 安佐動物園

れ：レモンがとれる 瀬戸田町

なお、図3は上記のうち9枚を選んだものである。



図3 生徒の選んだかるた札 (一部)

(2) 課題の感想 (自由記述)

自由記述では、大きく4つの傾向が読み取れた。

1つめは、出てくる語句の地理的分布であり、広島市内や県南部へ集中していることが指摘された。また、尾道の登場が多い。という記述も多くみられた。一方で、尾道以外の県東部は少なく、安芸と備後の遠さについて指摘した記述もみられた。

2つめは、食文化が多く登場していることである。カキ、レモンなどの農水産物や、お好み焼き、もみじ饅頭、尾道ラーメンといった食べ物に対し、県民が誇りを持っている。という記述が多くみられた。

3つめは、世界遺産に関する指摘であり、「宮島」と「原爆ドーム」という語句より、これらが広島を代表する観光名所であるという記述である。

4つめは、スポーツについてである。広島東洋カープの登場回数が多い。という記述が多く、中にはカープとサンフレッチェの登場回数は、歴史の差であり、歴史の浅いドラゴンフライズはこれから増えていくのではないかと。という記述もみられた。広島に住んでいると存在が当たり前のように感じるが、野球、サッカー、バレーボール、バスケットボールのプロチームがある都市は、それほど多くない。このようなスポーツ文化を広島の文化として理解していることが読み取れた。

6. おわりに

本研究では、「広島かるた」の作成を通して、中学生が広島県の市区町村に対してどのようなイメージを有しているかについて、テキストマイニングソフトである「KH-Coder」を通して分析を行った。そして、読み札のうち地域が明確であるものを取り出し、内容の分類を行い、市区町村の類型化を行った。

出現回数と地理的な分布では、県南部の出現回数が多く、広島湾沿岸(廿日市市・広島市・呉市など)の記述が多くみられた。県西部では尾道市の出現が多く、鞆の浦が位置する福山市も多かった。県北部の出現回数は少なかったが、中国山地に関する美しい景観や、水源としての山間部のイメージを有していることが分かった。

分野では、「第一次産業・食文化」「観光」に関するものが多かった。広島湾のカキ養殖業、島嶼部の柑橘類の登場が多く、食文化ではお好み焼きや尾道ラーメンが代表的な食べ物であると認識している。その他では、東広島市・西条の日本酒、三次市のピオーネのイメージが強かった。「観光」では、2つの世界遺産(原爆ドーム、平和記念公園、宮島、厳島神社)と、鞆の浦、尾道の出現回数が多かった。また、これらに加えて「スポーツ」に関するものも多く、

さまざまな種目のプロチームを有しており、スポーツ文化が根付いている広島ならではの特徴であるといえ、中学生にとってスポーツは身近な存在であることも読み取れる。

このように、生徒のイメージと、一般的な広島県が有している特産品や観光地に大きな違いはみられず、ステレオタイプのな地域イメージは有していることが分かる。しかし、地域にはそれぞれ固有の自然景観、産業、人間生活が存在する。このような固有性を比較し、ステレオタイプに加えた地域イメージを有することが出来れば、より地域への理解が進み、愛着を持つのではないかと考える。そのような固有性を比較できるような教材の開発が今後の課題であると考えている。

引用・参考文献

- 1) 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編』, 2019年.
- 2) 原口美貴子・山口幸男「「郷土かるた、上毛かるたの魅力と意義」一郷土かるた王国「群馬」からの発信」, 『群馬大学教育学部紀要人文・社会科学編』, 第59巻, 2010年, 9-20.
- 3) 原口美貴子「白鷗大生と取り組んだ「小山かるた」づくりの実践報告-小学校社会科身近な地域(郷土)に関する学習の指導力育成をめざして-」, 『白鷗大学教育学部論集』, 第9巻2号, 2015年, 411-439.
- 4) 梅田克樹「大学生の地域認識-「お国自慢」に着目して-」, 『千葉大学教育学部研究紀要』, 第67巻, 2019年, 339-342.
- 5) 和田崇「スポーツまちづくりがもたらす社会経済効果-徳島県阿南市の「野球のまち推進事業」を事例に-」, 『経済地理学年報』, 第67巻, 2021年, 43-57.
- 6) 和田崇「過疎地域における高校運動部の位置づけ-高千穂高校剣道部の事例-」, 『地理学評論』, 第94巻, 2021年, 364-380.
- 7) 小山拓志・土居晴洋・古賀精治「地域の災害リスクを踏まえた大分県立特別支援学校における教職員の防災・減災意識の現状」, 『地理科学』, 第75巻, 2020年, 155-163.
- 8) 牛澤賢二『やってみようテキストマイニング 自由回答アンケートの分析に挑戦!』, 朝倉書店, 2018年.
- 9) 末吉美喜『テキストマイニング入門 ExcelとKH Coderでわかるデータ分析』, オーム社, 2019年.
- 10) わたしたちの広島編集委員会『わたしたちの広島3・4年-平成31年度版』, 中国書店, 2019年.

Junior High School Students' Image of Towns and Cities in Hiroshima Prefecture: Analysis of Hiroshima Karuta

Shogo BANSHOYA

Abstract:

This study analyzed what perception junior high school students have of the towns and cities in Hiroshima Prefecture by analyzing the text in the "Hiroshima Karuta" created in my 2019 and 2020 junior high school geography class. Subsequently, the following points were clarified. First, the southern part of Hiroshima is more frequently mentioned in this karuta than other geographies. Second, the northern part is mainly associated with natural landscapes. Third, many of the images are related to "primary industry and food culture," "famous sightseeing spots," or "sports."